

草加川柳地区

こんなまちになったらいいな

地区別懇談会 の記録

第3回

プログラム

1. 開催にあたって
2. 意見交換
ワークショップ①：お気に入りのプロジェクトを見つけよう
ワークショップ②：プロジェクトの内容を深めよう
3. 検討結果の発表
4. 閉会・次回のご案内

日時：令和4年10月7日（金）
18:30～21:00

場所：川柳文化センター体育室

参加者数：24名

当日の様子



ワーク①：お気に入りのプロジェクトを見つけよう の記録

ワーク①では、第2回地区別懇談会で生まれたプロジェクトの種となるアイデアから各参加者がお気に入りのプロジェクトを2つ選び、その結果を元に、後半のワーク②で内容を深めていくプロジェクトを各班で3つずつ選びました。（※今回選ばれなかったプロジェクトについても、最終的なコミュニティプランに反映します。）

テーマ1 「つながり・支え合い」		
	プロジェクト名（仮）	選んだ理由
	1-1 共通の目的を見つけて 交流できる関係づくり	コミュニティプランのなかで、今後検討していく予定です。
	1-2 多世代交流による 「お互い様」の地域づくり	コミュニティプランのなかで、今後検討していく予定です。
	1-3 高年者による子ども・ 子育て世代向けワークショップ	★（B班）・子どもに対する愛情が強く、子どもを見守りたいという高年者は多いと感じる。このような取組は、子どもにとっても貴重な経験となるし、高年者の生きがいになる。
	1-4 高年者と子どもによる イベントの企画・実施	★（A班）・子どもが企画に関わるのが、とてもよいと思う。子どもと高年者が一緒に企画をして、おじいちゃん・おばあちゃんと顔なじみになれば、大人たちが子どもを見守る関係の一つになると思う。
★ A班	1-5 地域で子育てサポートが できる体制づくり	★（A班）・「生きる力を強める」というのは大事だと思う。今は、（ボーイスカウトの活動をしている中でも）蝶々結びができない子がいる。 ★（A班）・生活で役立つことや、体力をつけるような取組は今の子ども達にとって大事だと思う。
★ B班	1-6 多分野連携による 子育て世代・高年者のサポート	★（B班）・子育ては地域の中で。ただいま！と学校から帰って来た時に、近所の高年者の方からおかえりと声をかけてもらえるような関係があるとよい。地区には自立して活動をしている団体が多いため、そういう方々の協力を得ながら、既にあるものをベースに発展させていくとよいものができていくのではないかな。 ★（B班）・地域に帰って来た退職男性と高年者の長年培ってきた力を子育てに活かす。子育ては女性だけでなく男性こそ参加が必要。地域への貢献を生きがいにつなげる。

テーマ2 「居場所」		
	プロジェクト名（仮）	選んだ理由
	2-1 空き家等を活用した コミュニティカフェづくり	★（B班）・空き家が多いと聞いてはいるが、リノベーション物件があれば見てみたい。ただしそれは低予算では絶対にできないため、借金をするのは誰かという話になるなら自分としては悩む。空き家の活用とコミュニティスペースの創出の両方が必要だと思う。 ★（B班）・カフェとなると、小学生だけでなく大学生や中高生も集まるため、更に多様な世代が交流できる。空き家カフェはわくわくするため草加市の名物になるのでは。 ★（B班）・10年、20年後を見据えると空き家はもっと増えるため、活用を考えることは大事である。今のうちに土台をつくって20年後に焦らないようにする。 ★（B班）・自宅が一番居心地が良い場所であり、職場はセカンドプレイス。サードプレイスとしてカフェあったら世代間の交流もできるし、地域も活性化する。1軒モデルができたなら他の空き家へも広がる可能性がある。何かに影響されて始めることが多い日本人の特性にも合っている。
★ D班	2-2 柿木の古民家を活用した 居場所づくり	★（D班）・自宅に閉じこもりがちな高年者が近所で集まって気軽におしゃべりできる場所をつくりたい。 ・場所は古民家ではなく、井戸端会議の延長で軒先でもよい。地区内の数か所におしゃべりができてお茶ができる空間を設けたい。 ★（D班）・世代を問わず集まれる場がほしい。集会所はあるが世代を超えて集まれる場所はない。高年者の他にも子どもや子育て世代、若い世代が集まる場所がない。 ・家庭にあるものを持ち寄って、ちょっとした販売所にすれば人が集まるのでは。お茶・駄菓子が出せるとよい。古民家は維持が大変。 ★（E班）・地域資源として、古民家を有効活用したい。高年者に限らず、多世代の交流が図れる場所にしてもよい。

★ A 班	2-3 子ども食堂の周知・PR	★(A 班)・子ども食堂の本来の意味が伝わりにくい。調理のボランティアさんは人手が足りているが食材の置き場所が無いなど、周知方法には工夫が必要。 ★(A 班)・PR は活動上の課題である。お手伝いしてくれるシニアの人は多いが SNS での連絡が取りづらいなど、活動する上での情報の共有・周知は課題がある。
★ B 班	2-4 草加あおはる食堂<拡大版>	★(B 班)・あおはる食堂はすでに活動していて、継続性がある。取り組みやすい。踏み込んだ取組ができるとよいのではないかな。 ★(B 班)・自ら運営しており、しがらみや偏りがなく、すべての人の意見を聴きやすい。やれそうなことをどんどんやれる。ただし、お金はない。とっかかりとしてあおはる食堂を使ってもらうことはかまわない。年に 12 回開催するため、チャレンジの場となる。 ★(B 班)・子どもも大人も参加できるふれあいの場であり、交流の場にもなる。既にあるものを活用することができる。
	2-5 公共施設等を活用した地域食堂や生活支援サービスの実施	★(A 班)・地域の中に、西部地区の「あきちゃんち」の様な、多世代で使える場所がほしい。そこで子ども食堂を展開したり、子どもを預かる場所として使えと良い。 ★(A 班)・地域の中に活動できる場所を増やすことで、活動回数自体も増やしていけるのではないかな。
★ B 班	2-6 川柳文化センターを活用した子どもやママの交流の場づくり	★(B 班)・せっかくこれだけ大きな公共施設があるのに、子どもがあまり来ない。柿木公民館には机や子どもがおしゃべりするスペースがあるが川文はおしゃべりが禁止で以前よりも入りにくい。もっとオープンな施設になるとよい。 ★(B 班)・地域の退職者や高齢者の居場所にする。自身は社協のサロンに関わっているが、場所がなくなり、かつコロナ禍で集まることできない。退職者は人生をかけて仕事をしてきた人達であるため色々な技術を持っている。人もグループも、バラバラにあるものをネットワーク化して活用していく。 ★(B 班)・特に暑さが厳しい夏に遊びに行く場所がないため、ここで活動をできるようにしたい。／勉強スペースしかないため、集まれる場ほしい。 ★(B 班)・この地域には児童館がないが、新設は難しいということであれば、月に 1～2 回子どものために 1 日開放してほしい。特に雨の日や天気が悪い時、子ども達の居場所、遊ぶ場所がない。高齢者だけの施設ではないため、赤ちゃんから高齢者まで色々な世代に利用できるようにしてほしい。 ★(B 班)・地域にいる皆さんで取り組んでいく中で、川文の管理の一部を地域で担うことはあり得ると思う。

テーマ3「農業・歴史・文化」		
	プロジェクト名(仮)	選んだ理由
★ D 班	3-1 作育とお祭りを連動させたイベント	★(D 班)・作物の成長過程を知ることが大切。小学校などで子どもの芋ほりや枝豆の収穫体験の機会はあるが、それだけでは作物の成長過程を知ることにはできない。「芽が出る」ところから体験することで、食べ物大切さを伝えたい。農業を教えられる人も年々少なくなっている。 ★(D 班)・お祭りの意義を子ども達に伝えたい。作付けし、豊穡を願ってお祭りをし、収穫して感謝のお祭りをする。そういうお祭りの意味も子どもに伝えたい。 ★(D 班)・最近の子どもは、ゲームばかりで生き物に触れる機会がない。土に触れる、生き物に触れる、道具に触れる機会をつくってあげたい。
	3-2 柿木・青柳の農地を活用した子ども向けの体験	★(C 班)・自身も農地を持っているが、地区の農地を将来にも残していきたい。柿木地区は農地が多いが、農家は高齢者が中心である。子ども達が農家を体験するということを通じて高齢者を手助けできるのではないかな。 ★(D 班)・以前、公民館で芋ほり大会を開催していた。柿木だけでなく、体験の場をあちこちに設ければ人が集まるのではないかな。 ★(E 班)・子どもが自然との触れ合いを体験できる。また、子どもが大人と交流する機会ができればもっと地元のことを知ることができる。
★ D 班	3-3 柿木の寺社仏閣等の歴史資源のPR	★(D 班)・柿木は草加市の中でも歴史があり、既存の資源をすぐに活用できるので最も費用がかからない。実現しやすい取組である。 ・歴史資源の PR が不足している。寺社仏閣や里神楽などの歴史資源をもっと活用して PR したい。 ★(D 班)・古きを知り、歴史資産の保存意識を形成することが重要。寺社仏閣など古くからの歴史が柿木にはあり、知ってもらうことで保存意識が芽生えてくる。 ・お祭りとも連動させ、人々を呼んで賑わいが出来れば保存の費用も賄えるし、総代さん氏子さんの励みにもなり連携にもつながる。 ・みんなが来るからまちを綺麗にしよう、といった意識にもつながるとよい。 ★(D 班)・寺社仏閣は癒しの空間。みんなに来てもらい、癒しの空間にふれてもらい、リフレッシュしてもらいたい。長い歴史を知ってもらい、継承していきたい。
	3-4 地域のお宝さがし&情報発信	コミュニティプランのなかで、今後検討していく予定です。

テーマ4「自然・みどり」		
	プロジェクト名（仮）	選んだ理由
★ C班	4-1 地域内の自然と触れ合う場や 環境づくり	★（C班）・使われていない公園や環境をうまく活かしていきたい。青柳地区は特に、開発によってできた小さな公園が多いが、利用率が低く、管理面でも課題がある。草加市における小規模公園の活用モデルになればよいと思う。 ★（C班）・既存施設や資源の活用と多世代交流、地域振興のために必要。そうか公園を活用するイメージであり、公園内のステージは、昔は音楽イベントなどが行われていたようだが、最近では使われているのを見たことがない。騒音などが理由であれば、場所を移して音楽やアウトドアのイベントに活用できると良い。 ★（C班）・地域との触れ合いや、ご近所での会話の場に自然があると良い。散歩する空間や、触れ合いの場としての葛西用水や八条用水が開発によって失われないようにしたい。ドブ川になると釣りも楽しめない。用水の片側に残った護岸のような空間があると良い。 ★（C班）・現状の環境を活かせる各団体の連携と役割の明確化が必要である。実現するためには、住民だけでなく行政や各団体の協力が不可欠だが、取組を進める中で各団体の特徴を活かすことができ、役割も明確になっていくのではないかな。
★ C班	4-2 四季を感じられる そうか公園づくり	★（C班）・既に場自体はあるので検討しやすい。また、そうか公園のリニューアルの検討も始まっており、整合を取りながら、今後のリニューアル検討の参考となる取組にもなり得る。地域の皆さんに参画いただきながら、そうか公園のリニューアルの意見を求めたい。 ★（C班）・公園を変えるのではなく、四季折々のイベントや雰囲気を作れると良い。既にあるそうか公園を土台にして取り組みやすいテーマだと感じる。イベントや体験を通じてひとつの居場所が出来上がっていくと思う。 ★（C班）・四季を感じられる場が欲しい。みどりなら何でも良いというわけではない。都内には四季を感じられる様々な種類の植物が植えられている公園があり、魅力を感じる。そうか公園もそのようになってほしい。 ★（C班）・観光をそうか公園から発信する。来街者を増やしてお花見の名所にするという活動に魅力を感じた。取組としても早期に着手しやすく、桜は既に多く植わっているため、ライトアップならすぐにでもできる。
	4-3 親子で自然と触れ合える場づくり	★（C班）・子どもに身近にある自然の魅力を感じてもらう。遠方に出かけなくても身近なところで自然の魅力を感じることができると良い。 ・子育て世代を受け入れられるようになると良い。都心に近いという利便性を生かして、子育て世代をターゲットにした取組ができると良い。 ・地域を後世に伝えていくための自然環境づくり。単に植物や木々の成長だけでなく、宅地化や残された自然の歴史も含めて後世に伝えられる地区になると素敵だと思う。
	4-4 散歩ができる 空間づくり・マップづくり	★（D班）・草が伸びて歩道にはみ出て歩きにくいところがあるため、草刈りをして散歩が出来るようにしたい。
★ C班	4-5 自然と触れ合えるアウトドア体験会	★（C班）・自然と触れ合うことで、自然を残したい。住民と子どものふれあいの場ができると良い。草加市は宅地化や開発によって極端に自然が失われていったまちだという印象があり、緑被率も低い。残された自然をこれ以上失いたくない。子どもたちと触れ合う場所として活用することで自然を維持していけると良い。 ★（C班）・地域内での多世代交流を図ることができる。おそらく低予算でできる。 ・遊休農地を活用する趣旨かと思うが、草加市には遊休農地がほとんど無い。ただし、比較的利用率が低い場所や、季節によって使われていない場所を活用して農地の減少に歯止めがかかると良い。有効活用できることが農家にも伝われば、農地が突然駐車場になる、といった事態を防ぐきっかけにもなる。 ・都市農地は避難先などの位置づけもあるが、イベントを通じて地域の人にそういった場所を知ってもらうきっかけにもなる。 ★（C班）・子どもがイベントに行きたがることで、自然と親世代も集まってくるのではないかな。子どもをきっかけに、親世代やさらにその上の世代が繋がると良い。 ★（C班）・自然とのふれあいを通じて、活動的な子どもを育てていく。 ・高年者が教えてあげることで、世代が異なる人同士の対話が生まれる。 ・既にある場所を活用したほうがよい。釣りなどはすぐにでも始めることができる。

テーマ5 「にぎわい」		
	プロジェクト名（仮）	選んだ理由
★ E 班	5-1 そうか公園を会場にした イベントの開催	★（E 班）・せっかく大きい公園でイベント広場もあるためもっと活用するべきである。イベントなど企画すべき。 ★（E 班）・そうか公園は地域の資源として大きい。また、多世代という視点でお子さんがある世帯は駐車場があるため集まりやすい。 ★（E 班）・今ある施設をいかに有効活用できるか、という考え方が大切であり、そうか公園という大きな財産の有効活用によって世代を超えたコミュニティの場を創出できる。緑があるという点も重要。地域で声を上げて、自分たちがやりたいことをまずやる、というスタンスが大切。 ★（E 班）・公園を利用したイベントを、企業と連携しながら進める必要がある。柿木の産業団地について、社員の顔や企業のことがわからないため、産業団地と地域がそうか公園を活用して上手く連携しながらイベント等できないか。
	5-2 子どもから大人まで楽しめる 釣り大会	★（E 班）・身近に用水があるのに触れられないのはもったいない。私たちが小さい頃と同じように触れ合えると良い。学校に近いという点から、葛西用水で小中学生を対象に行えると良い。先日川柳小の子ども達が先生と一緒にザリガニ釣りをしていた。 ★（E 班）・地域の自然を活かして多世代交流ができると楽しい。例えば、大人が子どもに釣り方を教えるなど。
	5-3 四季折々のイベントの開催	コミュニティプランのなかで、今後検討していく予定です。

テーマ6 「地域連携」		
	プロジェクト名（仮）	選んだ理由
	6-1 住民間や企業との顔が見える 関係づくり	★（E 班）・企業側も、どのような企業であるかということを住民に知ってもらうことでクレームも減る。イベントごとに協賛金を得ることで、様々なイベントが実施しやすくなる。行政に頼るのではなく、地域でお金を生む仕組みを作る必要がある。
★ E 班	6-2 まちづくり団体間で情報交換や コラボができる場づくり	★（E 班）・地域のまちづくりの進捗状況を始め、情報交換できる場があると良い。
★ E 班	6-3 地域で連携して 自転車のマナー教室の開催	★（E 班）・草加市は交通事故が多く、死亡事故も増えているため、小学校で大人と子どもが学べる自転車の交通安全マナーの取組ができると良い。市や交通安全協会と連携することで、実現可能性も高いのでは。 ★（E 班）・埼玉県内で草加市はワーストであるため、大人から子どもまでと一緒に交通安全教室ができると良い。／小学校ではマナー教室あるが、大人がマナーを学ぶ機会が無い。事故を減らすために大人も一緒に学べる機会があると良い。 ★（E 班）・死亡事故が増えている。歩行者向けではあるが、小学校で児童向けの交通マナー教室を実施しているため実現可能性が高い。 ★（E 班）・事故が多いことは全市的な課題であるため、川柳地区をモデルに、市全域に広げていけると良い。そういった意味でも有意義な取組である。

ワーク②：プロジェクトの内容を深めよう の記録

ワーク②では、ワーク①で選ばれた各班3つのプロジェクトについて、目的や活動内容、関連する人や場所などを深めました。

【テーマ：つながり・支えあい】で選んだプロジェクト ①

A班で検討！

1－5：地域で子育てサポートができる体制づくり

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域の子ども…様々な経験ができて、学校以外の友達ができる場所や機会が増える、新たな居場所をつくる。障がいがある子でも参加しやすい環境や体制をつくる。
- ・子育て世代 …地域の中に、子どもに関する相談をできる人がいる。

中心となる担い手

- ・地域にいる元気な高年者など
- ・町会の関係者

プロジェクトを支える人たち

- ・子ども会、子ども食堂
- ・ボーイスカウト
- ・その他、地域のサークル・団体

プロジェクトの内容

●活動内容①【中心メンバー・協力者】

- ・地域の中で、サークル関係者や得意な事がある人を人材（財）リストにまとめ、魅力的な活動内容の企画・実践に協力してもらう。

●活動内容②【参加しやすさの工夫】

- ・子どもを活動場所まで、安全・安心に連れていってくれるボランティアを募集し、保護者に送迎の負担がかからない形で参加できるようにする。
- ・障がいのある子どもも参加できて、かつ運営者側も安心して受け入れられる体制を整える。

●活動内容③【内容の企画】

- ・（①で募集した人材を活用して）魅力的な活動内容を企画する。

●活動内容④【活動場所】

- ・地域の中で、民間を含め、ちょっと貸してくれる場所でワクワク感がある場所を使う。

●活動内容⑤【情報発信】

- ・活動の愛称・キャッチコピーを募集し、より新鮮で良いネーミングにする。

今後の主な検討課題

- ・活動内容①…メンバー・協力者の確保
- ・活動内容②…障がいのある子どもを受け入れる体制づくり
- ・活動内容④…活動場所の提供者の確保

1-6：多分野連携による子育て世代・高年者のサポート

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・全世代を対象とするが、主なターゲットは高年者（特に男性の退職者）や子育て世代
…子育て世代や高年者が安心して暮らせるように「孤立」させない。

中心となる担い手

次回検討

プロジェクトを支える人たち

次回検討

プロジェクトの内容

- 活動内容① 子どもや子育て世代と高年者の交流を通して、どちらの「孤立」も防ぐ
 - ・高年者が子どもと一緒に活動する機会をつくる。高年者の力や才能を地域で活かしていく。
- 活動内容② 高年者の得意なことを活かす
 - ・高年者（特に男性）の「得意」を資源と捉えて再利用する。
 - ・退職者に、「あなたの得意なこんなことが地域で役立ちますよ」と周知する（これが行き届かないと孤立してしまう）。

今後の主な検討課題

—

2-2：柿木の民家を活用した居場所づくり

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・高年者…高年者が集まっておしゃべりやお茶ができる身近な場所をつくり、家に閉じこもりがちな高年者の交流の機会を増やし、元気なまちにする。
- ・子どもから子育て世代、高年者まで世代を問わず
…高年者に限らず、子ども、子育て世帯、若い人が集まる場所が少ないので、いずれは世代を問わず集まれる場所にしていきたい。

中心となる担い手

- ・地区別懇談会の有志
- ・ボランティア

プロジェクトを支える人たち

- ・地区別懇談会の有志、ボランティア
- ・地域住民、パン屋さんなど

プロジェクトの内容

- ・民家の庭や軒下に、高年者または多世代が集まり、おしゃべりやお茶ができる身近な場をつくる。

●活動内容①【活動場所】

- ・古民家を上手に再生したお店もあるが、電気水道代など維持コストがかかるため、場所は古民家にはこだわらない。ただし古民家の改修に助成制度などあれば活用したい。
- ・高年者が集まるには自宅から歩ける範囲がよい。民家の軒下や庭にテーブルを置いて集まるくらいの場でもよい。

●活動内容②【交流の場づくり】

- ・お茶菓子を持ち寄ったり、ちょっとしたものを販売したりして人を集める。
- ・多世代交流が理想だが、同世代の方が気軽に集まって話しやすい。利用者を世代ごとに曜日で分けたり、一つの場所を世代別に分けたりするとよい。

●活動内容③【中心メンバー・協力者】

- ・場所を提供してくれる人を募集する。場所を提供してもらい、利用者がお茶菓子などを持ち寄ってお茶してもらおう。利用者の中から、そのグループの責任者を決めて維持管理を任せる。
- ・世話役や管理者が必要であれば、ボランティアを呼びかける。

●活動内容④【将来の展開】

- ・高年者の居場所づくりからスタートし、いずれは子どもや親御さんの情報交換の場所にしたい。
- ・最初は無料でも、いずれワンコイン払ってでも行きたい場所に工夫していく。

今後の主な検討課題

- ・活動内容①…活動場所の提供者の確保
- ・活動内容③…中心メンバーと協力者の確保

2-3：子ども食堂の周知・PR

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域の子どもや大人…子ども食堂という名称にとらわれず、子どもだけでなく高年者を含む大人も来ることができる場所・居場所をつくる。
- ・困難を抱える親子…子ども食堂の本来の目的でもある、貧困など困難を抱えた親子が来ることができる場所にする。

中心となる担い手

- ・子ども食堂の人

プロジェクトを支える人たち

- ・ボーイスカウトの人
- ・ボランティアの人
- ・地域の人（場所等の協力をしてくれる人）

プロジェクトの内容

●活動内容①【協力者を増やす】

- ・「食」以外の支援（学習支援、活動・交流プログラムの提供など）の面を充実させるため、協力者を幅広く募る。（例えば、学習室での学習支援で教えてくれる人を増やすなど）

●活動内容②【内容の企画】

- ・子ども食堂や子ども会だけでは思いつかないようなアイデアや企画を提案・実践できる団体や人についてリサーチし、魅力的な活動・交流のプログラムの実践に協力してもらう。

●活動内容③【活動場所】

- ・いつもとは違う場所で、活動や周知に使わせてもらえる場所がないが探す。（特に食材（200食位）を置いておく場所の確保）

●活動内容④【情報発信】

- ・子ども食堂の「本来の目的」や、食以外の活動内容、現在必要としている支援（物資の保管場所など）をPRし、理解促進や今必要としている支援をより受けられるようにする。

今後の主な検討課題

- ・活動内容①…メンバー・協力者の確保
- ・活動内容③…活動場所の提供者の確保
- ・活動内容④…理解や支援につながるような情報の発信

2-4：草加あおはる食堂＜拡大版＞

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・どなたでも！（困難を抱える人だけでなく、子ども、高年者、全ての人）。地域外からも参加 OK
- …育児の負担軽減と息抜きできる場をつくりたい。
- …心を落ち着けて過ごせる場をつくりたい。

中心となる担い手

- ・現在のメンバーを中心に、様々な協力者の協力を得る。
- ・協力者の中から、運営を担う人を増やす。

プロジェクトを支える人たち

- ・高年者（料理、野菜栽培、DIY、昔遊びなどの達人）
- ・お金集めが得意な人
- ・法人化などの組織づくりに詳しい人
- ・獨協大学ボランティアサークルぷらすわん

プロジェクトの内容

●活動内容① 思い切り遊ぶイベントの実施後に食堂を開催する

- ・日中子どもたちと思い切り遊んで、お腹をすかせてからおいしいものを食べる。
- ・参加のハードルを下げ、食堂に参加しづらい孤立した親子を減らしていく。身近な相談機能も担う。

●活動内容② 自分たちで食材をつくる

- ・自分たちでつくった野菜などを皆で食べる。づくり手の顔が見える形で食べることを大事にする。
- ・食材（特に野菜）を地域の高年者が子どもたちと一緒に畑を借りてつくったものを使う。

●活動内容③ シェルターの開設

- ・空き家等を活用し、何かから逃げて来る親子のシェルターになり安全で安心な場所を提供する。
- ・月1回の食事から、毎日の寝る場所、おだやかな気持ちなどをどんどん提供できる食堂を目指す。

●活動内容④ 仲間を増やす

- ・日中のイベントを担う人を増やす。「獨協大学ボランティアサークルぷらすわん」を通じた声かけ等。
- ・野菜づくりが得意な人など、得意なことがある高年者を募る。

●活動内容⑤ シェルター運営や、相談の機会が増えることを見据えた専門性の向上

- ・県の子育て支援員研修（地域子育て支援コース）などを受講する。
- ・仲間のネットワークを通して、元幼稚園教諭、潜在保育士などに声をかける。

今後の主な検討課題

- ・現在の運営メンバーは本業もあり同じメンバーで拡大することは難しい。協力者を得ながら、子ども、若者、高年者、皆で担う必要がある。また、人の問題は、今後の円卓会議などを通して解決していくことを期待する
- ・事業拡大と継続性を確保し、法人化などによる組織づくりを行い、財源を確保する必要がある
- ・開設場所を確保するために、空き家提供者を募る必要がある

2-6：川柳文化センターを活用した子どもやママの交流の場づくり

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・主に子ども（小学生）と小さな子どもと親
 - …子ども（小学生）の居場所と、親子が交流し相談できる場をつくる。
 - …川文をもっと活用する。地域には子どもがあふれているけど遊び場がない。公民館と児童館を合体させたような利用をしないともらえない。

中心となる担い手

- ・サークルを立ち上げイベントをしかける
- 地域運営委員会へ発展させていく。

プロジェクトを支える人たち

次回検討

プロジェクトの内容

●活動内容① おしゃべりや交流を通して、全世代の悩みが解決する場をつくる

- ・赤ちゃんを連れたお母さんたちも、ここに来て話すことで孤独が癒やされ、悩みが解決する。子どもたちも、ここに来れば居場所がある、遊べる、誰かがいる。高年者も孤独が解消される。

●活動内容② 相談に乗り、必要に応じて専門職へつなぐ

- ・サークル活動中などに、ふとした相談に答える。専門性が必要な内容の場合は、専門職へつなぐ。

●活動内容③ 川柳文化センターを今よりも入りやすい施設にする

- ・今の川文は入りにくいし、禁止事項も多いが、子どもや親子が自由に出入りできる場所にする。
- ・あたたかい雰囲気で迎えるスタッフを配置。「子どもたち来てもいいんだよー」という雰囲気づくり。

●活動内容④ 常設のスペースを確保する

- ・既存の施設をきちんと活用する。託児室も物置部屋になっているが、きれいにすれば使える。
- ・おしゃべりができる場所を1箇所開放する。軽く座れるようなコーナーがあるだけでよい。

今後の主な検討課題

—

3-1：作育とお祭りを連動させたイベント

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域の子ども…子どもが土に触れる機会が減っている。単なる収穫だけではなく「芽が出る」ところから作物の成長過程を体験することで、食物の大切さを知ってほしい。
- …地域には豊穰を願うお祭りがあり、秋には収穫を感謝するお祭りがある。農業体験と収穫祭を同時に経験し、一連のお祭りの意味も伝えたい。
- …地域に根付く子どもがもっと増えて、より良いコミュニティをつくりたい。

中心となる担い手

- ・地区別懇談会の有志
- ・農家

プロジェクトを支える人たち

- ・農家
- ・神社

プロジェクトの内容

- ・作付けから収穫までの野菜作りを体験してもらい（「作育」で学ぶ）、豊穰祈願や収穫祭といったお祭りで、みんなで収穫したものを食べ、ふるまう。（「お祭り」で学ぶ）

●活動内容①【体験内容の企画】

- ・農業を教えられる人が年々減少しており、特に稲作は難しい。
- ・サツマイモや枝豆など、野菜づくりであれば実現の可能性がある。
- ・貸し農園・シェア畑のように、畑を提供して、自由につくってもらうことはできる。
- ・「作育」を堅苦しく捉えず、だんだんと農業の楽しさを体験する機会にしていきたい。

●活動内容②【協力者の確保】

- ・作付けから収穫の中間の作業には、農家の指導者の協力が必要不可欠である。
- ・知り合いの農家に、農地の提供と指導者としての協力を呼びかける。

●活動内容③【収穫祭での交流】

- ・収穫したものを「お日待ち」など神社のお祭りで、芋煮会のように調理して食べる。
- ・余った野菜は、お祭りの参加者にふるまう。または道の駅のように販売するなどして、地域交流の場となる機会を設ける。
- ・お祭りでの交流の様子は YouTube 配信し、柿木以外の地域や若い人に P R する。

今後の主な検討課題

- ・活動内容②…協力者の確保（貸し農地の提供者）
- ・活動内容②…協力者の確保（農業の指導者）

3-3：柿木の寺社仏閣等の歴史資源のPR

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域住民と地域への来訪者

- …柿木には 1500 年来の歴史があり、お祭り、里神楽、寺社仏閣など貴重な資源があるが、PR が足りない。
- …柿木の貴重な歴史資源を再確認しPR して、多くの人が寺社仏閣の癒しの空間に触れる機会を設け、地域づくりに活かしたい。
- …人が集まり賑わいが生まれれば、保存活動の資金もまかなえる。また、空き家の活用も進み、地域の課題であるバス交通の充実にもつながる。

中心となる担い手

- ・柿木町の有志
- ・歴史の専門家・有識者

プロジェクトを支える人たち

- ・歴史の愛好家
- ・観光ボランティア

プロジェクトの内容

- ・神社仏閣や地域の歴史など語り継がれてきたものを、柿木の歴史本や歴史に詳しい方の知見をもとに再発見・再確認し、柿木のPR戦略をたて、インターネットやSNS等で発信する。

●活動内容①【歴史資源の再認識】

- ・地域の歴史に詳しい方や観光ボランティア等の協力を得て、普段当たり前に見ているものの価値を再確認する。例えば集会所として使う十王堂の仏像は、一般に見れない貴重なものである。

●活動内容②【PR戦略づくり】

- ・柿木の歴史本をもとに、歴史や観光の専門家を交えて、何をメインに柿木をPR するかの戦略を検討する。（女体神社、東漸院、正福寺跡の仏像、鎌倉時代からの伝承や、豊田姓の由来など）
- ・例えばパワースポット、願掛けスポットを、エピソードと紐づけてPR する。（正福寺のお陰で重病を克服して元気です、など）

●活動内容③【SNS での情報発信】

- ・Youtube 動画やインスタなどの SNS で、若い世代向けに発信しPR する。

●活動内容④【体験の機会づくり】

- ・「楽笑さんぽ」など散歩コースの下地は整っているので、今の時代にあった観光戦略を検討する。

今後の主な検討課題

- ・活動内容②…歴史の有識者など協力者の確保
- ・活動内容③…SNS など情報発信が得意な若い世代の協力者の確保

4-1：地域内の自然と触れ合う場や環境づくり

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・多世代…子どもから大人、高年者までが、厳しい利用制限なく、ありのままの自然環境に触れることができ、楽しめる環境を創出する。
- ・地区内の小規模公園…活用されていない小規模公園を地域の有効な資源として再生できる取組にして、草加市全体の公園活用に関する課題の解決に繋げる。
- ・地区に関わる団体や組織…活動の検討を通じて、現状の自然環境をより活かせるように、各団体の方策や役割の明確化を図る。

中心となる担い手

- ・町会を中心に活動の音頭を取り、青年会などの各団体に波及させる

プロジェクトを支える人たち

- ・活動に賛同する有志の方々

プロジェクトの内容

●活動内容①【活動に参加したい人や協力者集め（人材発掘）】

- ・町会が中心となって情報を発信し、青柳青年会などの既存団体に声をかける。
- ・ご近所で、草花の生育が好きな方など、取組に関心を持ちそうな方に参加を依頼する。
- ・地域内で既に似たような活動をしている方を巻き込んでいく。
- ・活動メンバーの組織化はせずに、まずは地域内で取組に賛同する仲間を増やすことで活動の輪を広げていく。賛同者が増えてきたら、将来的な組織化も視野に入れる。
- ・取組の趣旨やメリットを明確にし、活動に参加することへのインセンティブを考える。
（例：草刈り活動への参加の対価として、プランターを提供するなど）
- ・活動の情報を発信する主体や、発信内容、賛同者とのコミュニケーション手段などは検討課題である。

●活動内容②【活動場所の選定】

- ・地域の貴重な資源である葛西用水や八条用水を中心に活動を行う。
- ・地区内にある小規模公園も活動場所の候補。

●活動内容③【プランターの設置活動（既存活動の拡大）】

- ・八条用水沿いでのプランターの設置や、近隣住民の有志による毎日の水やりといった手入れといった既存の活動を拡大していく。（苗や肥料の調達のみどり公園課からの助成を活用）

●活動内容④【葛西用水・八条用水の草刈りや清掃活動】

●活動内容⑤【新たな休憩場づくり】

●活動内容⑥【環境を維持するルールづくり】

- ・今ある自然環境を維持していくために、看板の設置等を抑制するルールを検討する。

今後の主な検討課題

活動内容①…活動の賛同者や協力者集め、情報発信の主体や内容、コミュニケーション手段の検討

4-2：四季を感じられるそうか公園づくり

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・そうか公園…様々な種類の植物が存在し、四季を感じられる魅力的なそうか公園にする。
…行政によるそうか公園のリニューアルの機会に併せて、地域住民からの意見を集約しながら、官民連携の機会とする。
- ・来街者…市内有数の大きな公共空間として、そうか公園を中心とした取組を市外にも発信することで来街者を増やす。

中心となる担い手

- ・地域住民
- ・子どもたち

プロジェクトを支える人たち

次回検討

プロジェクトの内容

●活動内容①【四季をより感じることができる樹木の植樹】

- ・現状で、ただ木々が生い茂っているだけの空間に対して手入れを加える。ゾーンごとに、四季の花や樹木を植えることができると良い。
- ・新たな植栽を植える場合には、専門家と相談しながら取り組む必要がある。

●活動内容②【園内の路面の整備】

- ・景観や安全を考慮すると、路面の整備が必要となる部分もあると思われる。
- ・整備する場合に、行政負担が大きくなるような方法を検討する。

●活動内容③【園内の桜のライトアップ】

- ・園内に多く植わっている桜を活用して、観光資源としての活用を図る。
- ・ライトアップだけであれば、取組として早期に実現が可能かもしれない。

今後の主な検討課題

具体的な活動内容の検討

4-5：自然と触れ合えるアウトドア体験会

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・子ども…地域の生態系を知り、自然の大切さを啓発していくことで、地域のみどりを維持していくための価値観を育む。
…自然との触れ合いを通じて、活動的でたくましい子どもが育つ環境にする。
- ・多世代…子ども同士が触れ合うことをきっかけに、親同士や高年者世代でのつながりを生み、多世代交流の機会とする。

中心となる担い手

- ・円卓会議を通じて有志によるサークルを発足する。

プロジェクトを支える人たち

- ・企画内容に応じて関係者・団体に協力を依頼する（生態系の専門家、協会など）

プロジェクトの内容

●活動内容①【アウトドア体験会の具体的なコンテンツの検討】

- ・円卓会議を通して、どのような内容のイベントを開催するか大まかな趣旨を検討する。固定化した組織を作るのではなく、サークルのようなゆるい集まりを中心に活動を始める。
- ・プロジェクトの目的に合致し、多くの子どもが関心を持って参加できる企画内容にする。
- ・企画内容に応じて専門家や各協会といった団体に対して協力を依頼し、内容を具体化していく。

●企画アイデア【葛西用水・八条用水での釣り大会】

- ・地区内には釣りを趣味とする方が多いため、教える側の協力者を集めやすい。
- ・地区の資源である葛西用水・八条用水を有効活用できる。地域資源を再認識する機会にもつながる。

●企画アイデア【植物、魚、鳥、昆虫など地域にある生態系の観察会】

- ・そうか公園には野鳥の写真を撮りに来る方が毎日のようにいるほど、生態系が豊かである。そのような自然環境を子供たちに知ってもらう機会とする。
- ・大学の学識や生態系保護協会など、専門家に協力を依頼できると良い。

●企画アイデア【農地の大切さが実感できる農業体験会】

- ・仕事として使われている農地を活動場所にするのは難しいため、場所の検討が必要である。
- ・地区内に遊休農地はほとんどない。季節に応じて一時的に使用してない期間があるため、その期間に活用させてもらうといったことを検討する。
- ・多少の補助金が出ることで、協力してもらえる可能性はある。参加へのインセンティブを検討する。

今後の主な検討課題

活動内容①…具体的な企画内容、活動場所、協力者など

5-1：そうか公園を会場にしたイベントの開催

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・外で遊びたい子ども、公園で運動したい高齢者

…子どもからお年寄りまで、多世代が交流できる機会を作ってにぎわいを創出する。キャッチフレーズを「地域の住民がいつでも集まるシンボルパーク」として、いつでも何かしらの活動やイベントが行われている公園。そうか公園をいかに地域のシンボルとしていけるか。

中心となる担い手

- ・まずは既存の組織を利用する意味で、町会の役員が中心となってスタートする

プロジェクトを支える人たち

- ・ごみ対策協議会
- ・地域の各種団体

プロジェクトの内容

●活動内容①【子どもが自由に遊べる仕組みづくり】

- ・そうか公園の運動場は予約制であり、子どもが遊びやすい環境ではない。施設管理者と地域が対等に話し合えるように、町会と地域の各種団体による「(仮称)フリーパーク協議会」を立ち上げ、子どもが自由に遊べる仕組みを作る。
- ・決まった役割があるガチガチの組織だと長続きしないため、参加も退出もフリーな新しい形の組織を目指す。町会は現場で動くのではなくマネジメント側に回る。

●活動内容②【子どものアイデアを聞き出す】

- ・大人が決めるのではなく、まずは子どもがやりたいことのアイデアを募集し、そこからやりたいことを決める。

●活動内容③【小さなイベントから開始する】

- ・大きなイベントは大変であるため、小さなイベントとして、例えばバスケットゴールを置いてフリースロー大会、小さいサッカーボールでフリーキック等、子どもが参加できるお祭りのイベントを実施する。

●活動内容④【既存の活動やイベントの周知・見える化】

- ・そうか公園では、お散歩会やノルディックを始め、様々な活動やイベントが開催されている。一方で周知が行き届いていないため知られていない。そこを見える化する。

今後の主な検討課題

- ・活動内容①…実現のために必要なこと（協議会立ち上げの際の手順）

6-2：まちづくり団体間で情報交換やコラボができる場づくり

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域内の諸団体

…同じ地域内でも、団体同士のことを知らないことも多い。情報交換や抱えている課題を共有する場を持つことで、課題解決に繋がり、地域のまちづくり団体の活動継続にもつながる。また、地域としての一体感が生まれる。そういった場があると良い。

中心となる担い手

- ・まずは既存町会の役員が発起人となる

プロジェクトを支える人たち

- ・社会福祉協議会（サロン）
- ・ごみ対策協議会

プロジェクトの内容

●活動内容①【町会組織を利用したサロン】

- ・各団体の代表者が集い、町民の代理人となって情報共有・意見交換する場「（仮称）地域活性化サロン」を開催する。
- ・今までの町会のあり方を変えて、町会のエリアを超えた全体を考えた活動ができると良い。町会活動の一環とすることで新たな組織を作らずに済む。ただし町会長は手一杯で責任者にはなれないため、あくまで場を提供するのみ。
- ・まずは小さく始める。自由に出入りができることが大事であり、「活動上の困りごとがあればお茶でも飲みながら話ませんか？」といった声掛けをする。堅苦しい雰囲気ではなく、社会福祉協議会が実施しているフリーお茶会のようなイメージ。
- ・入り口は町会経由だが、いくつかテーマを決めて、各自好きなテーマに分かれて情報交換や話し合いができる。自分の提案を実現できる。（それは町会に加入するメリットにもなる。）

●活動内容②【団体同士のコラボレーション】

- ・ゆくゆくは団体同士がコラボしたイベントが生まれる可能性もある。例えば子ども会とすこやかクラブと一緒にイベントを企画するなど。

今後の主な検討課題

- ・活動内容①…適切かつ利用可能な実施場所の検討
- ・活動内容①…サロン実施までに必要なステップの検討

6-3：地域で連携して自転車のマナー教室の開催

プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・子どもと高年者…草加市は県内でも特に交通事故が多い自治体であり、自転車による交通事故を低減する取組が必要である。すぐに解決できる課題ではないため、継続的に取り組むことが重要。

中心となる担い手

- ・まずは町会が発起人となり、徐々に協力者を増やす

プロジェクトを支える人たち

- ・草加市、警察
- ・小・中学校のPTA

プロジェクトの内容

●活動内容①【交通マナー教室】

- ・学校のグラウンドで、一時停止等の交通ルールを守りながら誰が一番早く目的地に到達できるか、といったゲーム感覚で参加できるイベントを開催する。
- ・現状では、青柳中で警察主催による交通安全の催しを実施している。対象を広げて、高年者も参加できるようになると良い。

●活動内容②【自転車のマナー週間】

- ・町会で実施している下校見守り隊を参考に、交通安全週間のように自転車マナー週間など、期間を決めて一部のエリアで実施する。交通安全協会に協力してもらえると良い。

●活動内容③【危険個所の周知】

- ・事故が多い場所や危険な箇所を地図に落として見える化し、住民に周知する。

●活動内容④【交通事故撲滅に向けた意識啓発】

- ・撲滅のための横断幕等を作って意識啓発をする。

今後の主な検討課題

- ・活動内容①…専門的な内容であるため、企画できる人を探す必要がある

第4回目地区別懇談会での検討内容

各班ワーク：プロジェクトの内容を確認しよう・具体化しよう！

・第3回の結果を踏まえて整理したプロジェクトシートをもとに、更に具体化が必要な部分と追加で検討が必要な部分の意見出しを行い、プロジェクトをとりまとめます。

※今回参加される皆様と以下のようなことを検討いたします。

今後、コミュニティプランとしてまとめ、各プロジェクトを実行に移していくためにはまだまだ議論の余地がございます。前回ご参加されなかった方も、是非活発に意見をお出しください！

＜検討の視点＞

①実現可能性を高める

- ・ステップごとに必要な協力や準備、誰に又はどの団体に協力を依頼できそうか
- ・実施場所、会場としてどこが考えられるか

②持続可能性を高める

- ・活動を進めるにはどのような方法が考えられるか
(例 施設利用・準備物購入・活動資金、お金をかけずに進めるアイデア)
- ・市や民間事業者等と連携できることがあるか
(例 民間企業・行政・活動団体に場所・モノの提供の協力を仰ぐ)

・当日ワークでは、さらなる具体化に向けて各プロジェクトシートに意見を出し合います！

(検討例)

6-2 地区の団体同士が情報交換できる場づくり	③取り組み内容
プロジェクトの目的： ●同じ地域内でも、団体同士のことをあまり知らないことが多い。地域としてみんなで情報交換することで、それは町会長へ相談すれば良いのでは？や一緒に活動してみようか、といったつながりが生まれる。そういった場があると良い。 ●抱えている課題を共有して課題解決に繋げることで、地域のまちづくり団体が活動を継続していけるようになる。 ●市の広報物も読む人が限られており市民になかなか届かない。詳しい方が再度情報発信をして草加市を好きになってもらえると良い。 ●団体同士がコラボした取り組みも生まれるかもしれない。 主な対象者： どのような人をターゲットにする？ ・町会の企業会員 ・子ども会、すこやかクラブ、 など地区内の団体 中心メンバー： 協力者： まずは既存町会の役員が発起人となり、そこから各テーマのトップにメンバーになる ・社協のサロン ・ごみ対策協議会 必要となる役割の検討・分担 実施場所： 場所はどこ？ 誰が予約する？	●町会組織を利用したサロン「(仮称)地域活性化サロン」 ・各団体の代表者が集まって、町民の代理人となって、情報共有・意見交換する場 ・今までの町会のあり方を変えて、自分の町会を仕切るだけでなく、エリアを超えた全体を考えた活動ができると良い。新たな組織を作るのではなく、町会活動の一環とすることで新たな組織を作らなくても良い。ただし町会長が責任者を担うと手一杯のため、場を提供するからフリーにやって、というスタンス。 ・一人一人の意見を聞くのは難しいが、代表者が集まることで町民のためにもなる。住民の代表者の集まりによって住民の声を届ける。町会のメリデメの話もそこで。 ●まずは小さな集まりから始める ・サロンの様に自由に入りができることが大事。活動上の困りごとがあればお茶でも飲みながら話ませんか、という。堅苦しい雰囲気ではなく、社会福祉協議会が実施しているフリーお茶会のようなイメージ ・まずは、小さいところから どのような課題がでてくる？ ●テーマに分かれて情報交換・課題解決 ・町会組織を利用した新たなサロン。入り口は町会だが、入ったら好きなテーブル(活動)に分かれて良い。自分がいった意見を実現できる。そうすると町会費を払うメリットにもなる。 ・川柳地区社協が活動毎に分かれているように、川柳ブロックでテーマ分け(チーム分け)をする。 ●団体同士のコラボレーション ・こういった場を作ることで、ゆくゆくは団体同士がコラボしたイベントが生まれる。例えば子ども会とすこやかクラブが一緒になど。 各ステップで必要となる取組みはなんだろう？